

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校学習漢字の読み書き、および中学校学習漢字の読みの力を定着させること。 ・問題で指示された形に応じて、自分の考えを論理的に、構成を考えて叙述できる力を育てること。 ・長文読解の問題の解き方に慣れること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に漢字テストを行い、漢字練習の習慣化を図る。 ・教科書を読む際に新出漢字の読みの確認を行い、文章の中の既習漢字に読み慣れていく。 ・200字作文の演習を行う。 ・副教材を活用して、様々な長文読解問題の演習を行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学力の差があるが、2回のシミュレーション学習の感想では、ほとんどの生徒が複数の立場から考え、課題解決など、よく思考している。 ・時事をとらえ、対立と合意、効率と公正の視点から、現代社会の仕組みをとらえること。 ・学力の高い生徒でも歴史的分野に関しては既習事項が定着していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の仕組みは意義があることを理解させるため、ワークシートなど作業的な学習や、活動型授業を行う。 ・資料を活用する際、信頼できる情報を探す姿勢を身につける。 ・ワーク問題集を活用し、復習を進める。 ・授業で既習済みの知識も振り返りながら学習を進められるように工夫する。その際に短時間でも学び合いの時間を設けるようにする。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能についてはある程度定着してきている。 ・思考・判断・表現への理解が生徒毎の差異が大きく出ている。 ・全国学力調査の結果として、標準偏差が都平均・全国平均よりも大きく、集団の偏りが見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎時間行っている復習テストを継続するとともに、思考・判断・表現へつながる内容も取り入れる。 ・数学的な文章の読み方を定着させるために、類題を用いたり、文章を分解したりして読解力を高めていくようとする。 ・演習時間を適宜調節し、偏りのある生徒への対応をしていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学力調査から、事象から理由を答える力はある。 ・基礎的な知識の定着を図ることも引き続き必要。 ・学習内容の理解を深め、科学的思考の表現を育成することが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、話合い活動や教え合う活動を通して、問題解決的な学習に取り組む。 ・実験結果から得られた結果から分析・解析し、自分の考えや話合いで得られた考察を表現する学習に取り組む。その上で、比較・分類して原理や仕組みを正確に理解する学習を増やす。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞や創作、器楽や歌唱の活動に、積極的に取り組んでいる。 ・器楽の演奏に、難しさを感じている。 ・音楽を形作っている要素とそれらの働きを表す用語や記号についての理解を深めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作活動においては、表現したいイメージをもたせ、音素材の特徴を生かし、音楽を作るようとする。発表も積極的に行う。 ・器楽練習では、教え合う時間などを作る。 ・音楽用語などについては、鑑賞の感想で取り入れるように工夫を促す。自分の感じたことを、友達に伝える機会も増やす。
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら調整し、見通しをもって題材に取り組むことのできる理解力を持っている。 ・題材などの目標は理解しているが、創造活動の喜びや感情表現を豊かにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品づくりだけでなく、ICTの利活用で鑑賞や言語活動を充実させ、心豊かな創造活動ができるようとする。 ・資料などを通して、目標や内容をあらかじめ理解して取組み、成果を振り返ることで理解を深める。

保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 運動の得手不得手を気にせず、全体が積極的に活動に取り組めている。しかし、体力的には低い値が目立つ。 保健ではＩＣＴを活用しているが、体育の方の利用も増やしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の活動の中で筋力トレーニングとランニングを入れ基礎体力を高めていく。 タブレットを用いて動きの確認やペアで練習方法を見つけられる取組みの時間を増やす。
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた中で授業に取り組んでいる。生物育成・情報の技術について、生徒によっては興味関心の低い面がみられる。 栽培方法、箸の製作について、生徒にわかりやすい製作学習の指導を工夫する必要がある。(技術) 少子化や地域交流の減少などで幼児と触れ合う経験が少ない生徒が多い。 作業自体は全員着実に進んでおり、全体的に意欲も高い。(家庭) 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板の活用の工夫をする。動画・書画カメラを使って具体的な学習指導の改善に努める。 生徒のつまずきをわかりやすく説明できるように指導の準備をする。(技術) 基礎的な知識と、社会状況、および、その課題を関連させて考えさせる。 幼児の発達に関して視覚的な資料を多く準備し、知識の定着を図る。 幼児の特徴について理解し、コミュニケーションを図る手段としてクッショング製作に取り組む。(家庭)
外国語	<ul style="list-style-type: none"> 自主的に学習に取り組むようになり、基礎、基本の文法は理解し始めたが、単語数の多い英文、長文には苦手な生徒が多い。 授業の中でスピーキング活動に取り組むことで英会話への意欲は高まっているが、まだ表現方法が限定的である。 	<ul style="list-style-type: none"> 長文理解に必要な接続詞の使い方を理解させるために、自己表現の場面で実際に使わせることで実践力を高める。長文を速読するために英文を逐語訳するのではなく、英文をそのまま理解させるように、比較的簡単な英文から速読練習をする。 自己表現するためには、話題となるテーマについて自分の考えをもつことが何より大事なので、実際に色々なテーマを考える場面を多くつくる。その中で自己表現に使える表現を指導し、実践する。